

平成28年12月20日

軽米町長
山本賢一 殿

提 言 書

軽米町百人委員会
委員長 菅原皓文

平成28年 年 月 日

軽米町長 山本賢一様

百人委員会「しごと部会」

部会長 下谷地忠一

百人委員会「しごと部会」の町長への提言

昨年度より、百人委員会「しごと部会」において、町の施策の説明を始めとして、部会において活発な話し合いが持たれました。

「しごと部会」は、その内容が深く、難しく感じました。

今年度はテーマを決め、テーマに沿って委員の皆様から、多くの意見が出されました。内容的にテーマから少しずれたところもありますが、ここに提言として提出いたします。

テーマ：若者のしごと

I 今、私たちが何をすべきか

- ① 軽米町も人口減少・少子高齢化の現象は同様である。しかし、これからの町づくりはやはり若者が中心となる。
仕事をする上で重要なことは、本人が目的を明確に自覚し、計画をたててそれに向かっていく努力が必要。
- ② 今いる人たちが、軽米の魅力ある仕事を見せてあげる。
自分たちの仕事を若者に見せ、知らせる事も大切ではないか。上から目線ではなく、自分たちの経験を生かした適切なアドバイスが必要。
私たちも親や周りの人たちを観て育ってきた。
- ③ 大人の活力を見せなければ、子供たちはしぼむ。

II 多角的・多面的な視点をもって

- ① アンケートの実施
 - 1-1 中学生、高校生の目線での「しごと」についての考え方
 - 1-2 企業（採用側）の要望、採用活動（勤務条件）などについて
- ② 若者（子供）を外に出さないというだけではなく、外から若者を引っ張ってこれる体制の整備
- ③ 会社員は60歳で定年になるが、農業には定年がない。大きく農業をやるのではなく、自分の状況に見合った農業であれば、産直などに農産物を提供することも楽しみながらできるのではないか。
そのことを、若い人に見せることも刺激になるのではないか。

- ④ 若い人で農業を頑張っている人・楽しく働いている姿を、軽米広報などで紹介することが必要ではないか。
そのことが、若い人の刺激になるのではないか。

Ⅲ これからの町づくりに望むもの（行政に望むものもあります）

- ① 軽米町に企業誘致ではなく、軽米町から近隣の市町村へ通勤することの検討
「若者のしごと」を町内に求めるのではなく、町外で仕事をし、生活の場を軽米町にする。生活の場を軽米町にすることにより、町内の各種行事等に参加していただき軽米町の活性化に寄与していただく。

→ 子育て日本一の町を目指す軽米町の各種施策のアピール
各種医療費の助成制度、保育料・幼稚園の経費軽減など、
（仮定）若者定住促進住宅の建設など

町民が読みやすく、解りやすいもの（表現を）

- ② 軽米町にもさまざまな仕事があれば良い。町内に求めることも必要。
- ③ 若者の気軽に集まれる場所が必要
昔のような青年会、4Hクラブなどの活動が出来ないものか？
農協などの各部門別の青年部・女性部活動等を活発に出来ないものか？
→ 若者同士の出会いの場づくりが必要
- ④ 建設業について、年間を通じ平均した工事発注を望む。
- ⑤ 町外から人を呼び込む軽米町の核施設として、ミルミルハウス・産直施設の充実を望む（ハード、ソフト両面で）
3-1 トイレの24時間開放
3-2 大型バスが容易に出入りできるように
3-3 町民の「いこいの場」として、少し整備してはどうか
- ⑥ 産直施設の充実
4-1 農産物を作る人と、購入する人の交流の場
4-2 農産物を生産し販売できる喜びが身近に実感できる場
そのためには、施設の充実が必要
- ⑦ 集落営農の推進 — 地域営農組織の立ち上げがこれから生き残る手段
現在ある機械利用組合等の組織の拡大・強化
- ⑧ 軽米町の基幹産業「葉たばこ・畜産・養鶏・野菜・花卉・ホップ・飼料米など」、軽米町の特産品「雑穀・さるなし・エゴマ・そばなど」について、基幹産業・特産品の生産奨励、価格補填制度などの充実により魅力ある農業に。
- ⑨ 町内で、伝統工芸品・珍しい作品等を作っている人がいる。
その人たちが、発表する・販売する機会を作ることも必要ではないか。

町として取り組んでいる姿を示すことも、「若者のしごと」の後押しになるのではないか。

早急ではなく、時間をかけて検討し、職員の負担にならないよう、財政の許す範囲内で検討願いたい。

スポーツ・文化・観光部会の部会別委員発言の要旨

【スポーツ部門】

● 軽米町の体育施設の改修整備

(体育館の修繕)

- ・雨漏りの修繕をしてほしい。(雨の日床が滑って危険である。)
- ・カーテンを手動でいいので閉まるようにしてほしい。(選手から苦情あり)
- ・天井の照明の球が切れていて暗い。明るくしてもらいたい。

(ハートフル球場)

- ・ナイター利用の照明使用料金が低い。安くしてもらいたい。
- ・太陽光発電等を活用したら安くなるのではないかと。再生可能エネルギーの町としてもスポーツ施設に太陽光発電等を導入することは良いことと思われる。

(テニスコート)

- ・現在軽米中学校のトイレを使っているので、トイレを作ってもらいたい。
- ・中学校への通路が暗いので、照明をつけてもらいたい。
- ・草刈りが出来ていないので、お願いしたい。
- ・大会が多いので、弁当やおみやげで町の活性化につながっている。
- ・駐車場が少ない。
- ・砂利の上にテントを立てている人がいて、危ないと思う。

● 体育協会の組織強化と体育館の管理について

- ・体育協会の法人化による組織強化で体育団体の活性化
- ・事務局を体育館に置いて、インストラクターの配置でスポーツ指導
- ・体育館の老朽化に伴う建て替え等の計画化

● いわて国体の開催について

- ・開会式、閉会式等に歓迎の郷土芸能(駒踊り)とかやったらいいと思う。
- ・軽米独特の応援やイベントを入れて、軽米のおもてなしはすごいと思ってもらいたい。
- ・歓迎の横断幕を町中に設置してもらいたい。(歓迎ムードの醸成のために)

【文化部門】

● 郷土芸能の伝承活動

- ・小中学校、高校に郷土芸能の活動を取り入れてもらいたい。
伊保内高校には郷土芸能委員会、葛巻高校には郷土芸能部がある。軽米の中学校、高校にもできないだろうか？
- ・晴高小学校では、総合学習でえんぶりを習い復活したが、また休止となった。
- ・郷土芸能を教える場合、練習場所への親の送迎が大変である。(保護者の理解)
- ・郷土芸能の継承は、継続的に取り組み、適時発表する場を作らないといけない。
(地元、盛岡、仙台、海外)・練習の励みとなる。
- ・郷土芸能の映像記録を残すことも大事である。
- ・山田獅子踊り、高家えんぶりなど、消滅危惧だが、今ならばまだ指導者はいると思う。
- ・駒踊りは、幼稚園保育園で練習し、素地ができています。
- ・郷土芸能の衣装整備などに、活動助成を十分行うべきである。
宝くじ助成事業など助成金、補助金等も活用する。

● かるまい秋祭りの活性化

- ・子どもの数が減って参加者を見つけることが厳しくなっている。
- ・秋祭りは、大人がやる気、意欲を出さないと子どもや若者のやる気も生まれてこない。
- ・参加ルールを明確に表示しながら、インターネットで参加者を募集したらどうか。
- ・三戸町では学校行事として、子どもたち全員が祭りに参加している。
軽米も学校行事として祭りに参加させることはできないか？
- ・山車の運行や購入費に補助金を出している町もある。
- ・山車だけでなく、神輿、郷土芸能も祭りを盛り上げるには欠かせない。
- ・町中心部だけの祭りではなく、町全体で参加できる祭りにしたい。
- ・北海道では、祭りの日は学校だけでなく会社も休みにしていた。
- ・人手の足りない団は、合同で山車を出すことができないか？

● その他

- ・毎月「軽米の日」を設けて、何かしら軽米に関する取り組みを行ってはどうか。
地産地消、郷土の行事など家族の絆、郷土愛を育むように
- ・昔の軽米の写真、映像等を使ったイベントなどがあればいいと思う。
活気のあった時代を振り返る。

【観光部門】

●観光案内板について

- ・高速軽米インター出口付近に観光案内板がほしい。
- ・ミルみるハウス敷地内にある町の観光案内版が、目につかないところにある。

●ミルみるハウスの充実

- ・出入り口が不便である。観光バスが入れるようにしてもらいたい。
- ・レストランを充実させた方がよい。特色のあるメニューの開発など。
- ・レストランの営業時間が短すぎる。
- ・ソフトクリームは、他の産直では外や入口付近だが、奥で買いにくい。
- ・直売のスペースが狭すぎる。今の3倍はほしい。
- ・産直を充実させる。(会員を増やして、売り物のボリューム、種類を増やす。)
- ・年に数回、何かしらイベントを行って集客を図る。
- ・施設の真ん中部分が機能していない。(暗い。)ソフトクリームを売ったらよい。
- ・施設全体の調和を取る人がいないのは？施設運営がバラバラである。
- ・サッポロビールとコラボして、公設民営のビール園を開設してはどうか？
- ・観音林の一里塚の観光活用(一里塚をミルみる付近へ移転できないか?)

●その他観光について

- ・八戸市から人を呼ぶため、長倉大橋周辺をもみじ(紅葉)の名所に。(植林)
- ・軽米に来た人は、1ヶ所観光して、すぐ帰る。点でなく線の観光開発を。
- ・歴史民俗資料館、ロマンの森周辺を整備してハートフル(芝桜)とセットで活用。
- ・九戸村オドデ館のような飲食のできる施設が必要。(道の駅的なもの)
- ・町中物産館を年中無休にすべききある。
- ・ミレットパークとミルみるハウスを施設統合して、みるミルハウスで雑穀そばを営業してはどうか？
- ・軽米の観光ルート、観光マップを作り、わかりやすく観光してもらおう。
- ・葛巻町みたいに小岩井農場から成功体験のある人を連れてくるみたいなことが必要。
- ・軽米町は営業力が弱い。情報発信能力が必要。
- ・観光協会を組織強化する必要がある。
- ・歴史民俗資料館の冬季閉鎖は、少しさびしい。
- ・さるなし、エゴマなどの生産量を伸ばす取組みがほしい。
- ・二戸駅に軽米町の観光パンフレットを置いた方がよい。

平成 28 年 12 月 20 日

軽米町長 山本 賢一 様

百人委員会「環境・衛生部会」

部会長 山舘 松五郎

百人委員会「環境・衛生部会」町長への提言

私共環境・衛生部会では、これまでに 3 回にわたり部会を進め、活発な意見が出されました。一口に環境と申しましても非常に広範囲に渡りますことから、最終的に提言まで持っていくための柱となるテーマを決め、「町民のより良い快適な生活環境を目指して」と題し、委員の皆様からたくさんの意見を頂戴することが出来ました。

ここに下記のとおり、提言として提出いたします。

1. 道路河川環境整備関係では、次のような提言をいただきました。

- ① 道路環境、歩道整備を望む。特に学校回り、子供たちが安心して通える歩道の設置をお願いしたい。側溝修繕をする際も一緒に歩道整備をしたほうが良いと思う。
- ② 河川の氾濫については、山や河川敷からの流木、倒木が河川をせき止め氾濫している原因となっているように感じる。行政だけでは対応しきれない部分もあることから地域の方々からもボランティアとして倒木処理を手伝ってもらったほうが良いと思う。
- ③ 消火活動の際、消防車が河川敷に降りられるよう「降口進入路」を作ってほしい。
- ④ 災害対応時は、業者だけではなく消防団とネットワークを生かし連携を取りながら一緒に対応すればよいと思う。
- ⑤ 県道二戸軽米線については、通学路・スクールバスの路線であることから早急な整備を図る必要があると思う。
- ⑥ 学校周辺の環境整備については、学校関係者だけでは対応できない部分もあると思うので、地域の方々・OBの方々からも手伝ってもらう事も一つの方法と思う。
- ⑦ 小軽米から軽米にかけて雪谷川沿いに管理道があるが、途中途切れて部分を整備し遊

歩道として活用してはと思う。

2. 衛生、住環境整備関係では、次のような提言をいただきました。

- ① 通勤、通学、通院、買物等に便利であり、そして高齢者とか障害のある方たち、それから子育て世代などあらゆる人たちが、隣近所支え合いながら安心して暮らせる町を作ることが大事と思う。
- ② 空き家対策については、不動産屋もいるが、やはり役場とか公的ところが間に入ってくると安心して貸し借りできると思う。空き家情報を流してほしい。
- ③ 住環境と言っても住居関係だけではなく福祉・教育の関係とかも関連することもあるかと思われることから、関係各課連携し合って協議することが大事と思う。
- ④ 高齢者による車の運転事故が心配である。年を取ってくればすべての人に起こりうること。町として対策を考えなければならないと思う。
- ⑤ 町中の側溝等に泥が詰まって草が生えてきたり悪臭が発生したりとか、そういうところもあるので、心地よく過ごせるよう町内会なり役場なり取り組んでほしい。実施する際は、1部分だけやっても駄目なので一斉に実施する何かがあればよいと思う。
- ⑥ ごみのポイ捨て対策は、重要であり（道徳）教育に係っていると思う。
- ⑦ ゴミ拾いであれ、雪かきであれ一人でできないところはみんなで協力すること大事。自分たちでできることは、町内みんなで出てやること大事と思う。
- ⑧ 軽米の中に空き家対策と連携しながら旅館に変わる受け入れ態勢、施設の確保をツーリズムのような形で実施できないものかと思う。
- ⑨ 道路脇に泥がたまり、歩道と道路の隙間に草が生えている。ボランティアでは間に合わない状況となっている。対応としては、クリーンアップデーを増やすことも考えられると思う。
- ⑩ 「みんなで町をきれいにする」との意識を広めたい。方法としては、クリーンアップデーの実施回数を増やしたら良いと思う。

3 その他では、次のような提言をいただきました。

- ① 共通して言えることは、「役場任せではなく、住民も一緒になってやっていくことが

大事」と思う。

- ② ボランティア育てること大事。それも教育だと思う。
- ③ ボランティアは、若い人たちの力を必要としていると思う。若者に引継ぎ伝えていくことが大事と思う。
- ④ ボランティアに関しては、協議会を作るとか組織必要と思う。登録制とするのも良いと思う。
- ⑤ 町民がいろんなことをボランティアみたいにして協力してやっていく形にしていくこと大事。なんでも役場でやるのが当たり前だなんて言ったら何にもうまくいかなくなると思う。地元住民が動いていかないといけないと思う。
- ⑥ 当町はソーラー発電推進していることから、通学路・公衆トイレ等もソーラーを利用して明るくしてほしい。明るい軽米町を作ってほしい。

以上、皆様からのたくさんのご提言をいただきましたこと大変ありがとうございました。

「環境・衛生部会」からの提言報告とさせていただきます。

提言書「安心して子育てができ、そして住み続けられる環境のために」

はつらつ子育て部会
部会長 上岩 恵美子

はつらつ子育て部会では、昨年出された意見を踏まえ、2つのテーマを設けて良い点、課題を出し合い、提言をまとめました。

◎テーマ1「安心して子育てできる環境」にするために

良い点

- ・ぴよぴよ広場、児童クラブがあり、児童クラブは長時間預かってもらえる。
- ・保育園を通勤に合わせて選べる。
- ・軽米病院に小児科があり、土日も対応してもらえる。
- ・赤ちゃん訪問や健診のほか電話でも子育ての相談ができ、出生後の支援は十分ある。
- ・5歳児検診など発達検診がきめ細かく行われている。
- ・幼稚園の虫歯への取り組みはとても良い。
- ・保健師が長くいるので、子どもの成長と一緒に喜べる。(入学、成人、就職等)
- ・中学校と高校の連携ができている。
- ・保育園、小学校、中学校、高校まで自宅から通えて、支援もある。(町外にも通学可能である)
- ・軽米中学校ではホームページを作成しており情報発信している。
- ・町の広報、情報無線、かるまいテレビ等情報を得られるものがある。
- ・お祭りを大事にしている。

良い点として挙げられたことに関しては継続していただき、更に充実させていただきたいと思います。

課題

- ・子どもが遊べる大きな公園がない。
- ・子どもの数が減ってきているため、ソフトボールや運動会などの行事ができなくなっている。また、スポーツや何か活動させるとき大変。
- ・小・中・高と通してできるスポーツがあればよい。
- ・廃校になった校舎を有効活用した方がよい。
- ・中学校が1つになったことで、通学等の不便さがあるので、スクールバスの利便を向上させてほしい。
- ・保育料について、1人目も低料金、2人目以降は無料といった良い施策を、他市町村・その他に発信して軽米に住む人を増やした方がよい。
- ・病児保育や一時預かり保育もあればよい。
- ・笹渡にも児童クラブがあればよい。
- ・町内に産婦人科がない。

提言

- ・フォリストパークを南郷の公園のように、子どもが遊べて親は買い物ができ、1か所で遊べる所があればよい。奥中山の「いわて子どもの森」も魅力的なので良いところ

を真似してみてもどうか。ハートフルは国体で道路等の整備もしたので、ハートフルに大きな公園を1つ作っても良いのではないか。

- ・既存の公園や宿泊施設、住宅などの施設を若者向けに改修してはどうか。
- ・笹渡の教員住宅をそのまま安く売って、自分で自由にリフォームできればよいのではないか。
- ・廃校の体育館等の活用（例えば、体育館の床を取り払って、野球・サッカー・ゲートボール等の屋内運動場にする、バスケ・バレー・卓球などたくさんの町内外の人が使える施設にする）
- ・各年齢で使えるサービスや助成制度などが一目でわかる、子育てマップ、テキスト的なものを作成すればよい。
- ・軽米の良さを知ってもらうための情報発信（本やポスターなど）
- ・出された良い点や課題が全てそうとは限らない。見方を変えれば、課題の中に良い点が含まれていることもあるのではないか。

◎テーマ2「結婚して住み続けられる環境」にするために

良い点

- ・自然が多い。
- ・チューリップといえば「軽米」。
- ・ハートフルの芝桜をいっぱいにする活動は良い。
- ・仕事の際に二戸、八戸、久慈など選択できる。
- ・高速道路が通っている。

良い点として挙げられたことに関しては継続していただき、更に充実させていただきたいと思います。

課題

- ・近くに就職する職場がない。
- ・子育てできる収入がない。
- ・子ども・配偶者有りの人の雇用促進をしてほしい。
- ・アパート、住宅が少ない。不動産屋がないので、アパートを探せない。
- ・町外から町内へ住む人への補助があればよい。
- ・子育て世代の転入促進。
- ・町の各種助成制度等の情報発信。
- ・宿泊施設が少ない。
- ・マンガ・アニメとの協働ができていない。
- ・結婚していない人が多い。

提言

- ・住む場所の確保と働ける企業誘致
- ・軽米に住むと良い点をアピールするような情報発信

課題として出されたもので提言に含まれていない内容については、行政の方で調査研究等していただき、今後対策を検討していただきたいと思います。

平成 28 年 12 月 20 日

軽米町長 山本賢一 様

百人委員会「高齢者いきいき部会」
部会長 菅原 皓文

百人委員会「高齢者いきいき部会」の町長への提言

「高齢者いきいき部会」では本年度、「高齢者の中からいかにしてリーダーを育成するか どんないリーダーを求めるか」をテーマに話し合いました。集約した内容をここに提言として提出します。

◎高齢者が生き生きとして楽しく生活する方法を探していこう。

高齢者には高齢者としての役割があるはずで、地区ごとに歴史、文化があります。それを伝え継承させていく責務が私たち高齢者にはあると考えます。

高齢者の得意とする分野を生かす活動を進めたいので、その環境を整えるため次の4点を具体的に提言します。

1. 各種の分野ごとの隠れた名人探しを進めてほしい。

昔話やわら細工、郷土料理、軽米特産雑穀（シリアル）、手芸的分野、各種スポーツなどの分野で長けている人、得意分野を持っている人をリーダーと考え、発掘してほしい。

2. 各分野ごとに活動できる場所の提供を考えていただきたい。

各名人をグループのリーダーとした活動が大切であり、そのためには小グループごとに活動できる場所が必要である。

3. 各分野リーダーの発掘と育成のための研修会の開催を計画してほしい。

4. 高齢者が気軽に始められるスポーツ活動の体制作りを進めていただきたい。無理なく動き、汗を流せる軽スポーツと活動できる場所が必要です。